

事例編

- 「誰もが気軽にスポーツに親しむことができる『場』」として、スポーツ施設におけるユニバーサルデザイン化を推進している事例について、紹介いたします。
- 事例施設において、各フェーズでの考え方や配慮事項、また、具体的に実施している取組等について、掲載しております。
- 様々な種類や内容の取組事例を掲載しておりますので、貴自治体の取組の内容に合致した事例をご参照ください。

MAP

【掲載事例一覧】

	施設名	所在地	種別			区分	竣工年	管理方法	フェーズ			
			体育館・アリーナ	グラウンド・スタジアム	プール				構想・計画	設計・建設	管理・運営	改修等
1	日本財団パラアリーナ	東京都品川区	○			○	2018	民設民営	●	●	●	
2	さわやかアリーナ 袋井市総合体育館	静岡県袋井市	○			○	2019	PFI	●	●	●	
3	鳥取ユニバーサルスポーツ センターノバリア	鳥取県鳥取市	○			○	2020	民設民営	●	●		
4	武豊町屋内温水プール (CCNCプールたけとよ)	愛知県武豊町			○	○	2022	指定管理	●	●	●	
5	舞鶴文化公園体育館	京都府舞鶴市	○			○	1986	指定管理			●	●
6	シェルターインクルーシブ プレイス コパル	山形県山形市	○			○	2022	PFI	●	●	●	
7	武蔵野の森総合 スポーツプラザ	東京都調布市	○			○	2017	指定管理		●	●	●
8	かみす防災アリーナ	茨城県神栖市	○		△	○	2019	PFI	●	●	●	
9	北九州市障害者 スポーツセンター アレアス	福岡県北九州市	△		○	○	2012	指定管理			●	●
10	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール	神奈川県横浜市	○	△	△	○	1992	指定管理			●	
11	勤労身体障害者教養文化体育館 SAGAパラスポーツセンター	佐賀県佐賀市	○			○	1983	指定管理			●	●
12	日野市南平体育館	東京都日野市	○			○	2022	指定管理	●	●	●	
13	町田GIONスタジアム	東京都町田市		○		○	1990	指定管理			●	●



本事例集は、スポーツ庁「令和4年度 誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業(スポーツ施設におけるユニバーサルデザイン化等推進事業)」で作成したものです。従って、本事例集の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

パラアスリート向けのスタイリッシュなスポーツ実施空間



- 所在地
・東京都品川区東八潮3-1
- アクセス
・新交通ゆりかもめ「東京国際クルーズターミナル駅」下車
徒歩すぐ

設置
運営

(公財) 日本財団パラスポーツサポートセンター
☎ (03) 5500-0825
<https://www.parasapo.tokyo/paraarena/>

DATA

- 竣工
・2018年
- 規模
・2,035㎡（アリーナ）
- 総事業費
・約8億円

■主な設備



アリーナ
車いすバスケットボールコート
3面相当



トレーニングルーム



ミーティングルーム

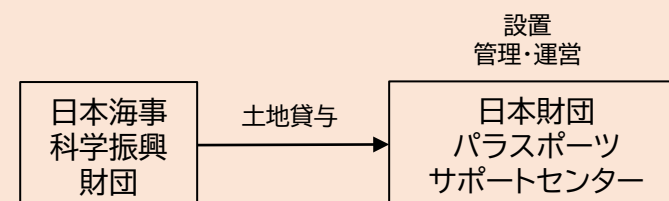


エントランス

<その他>
・駐車場
・倉庫
・更衣室
など

■体制図 ・民設民営

- 日本海事科学振興財団が所有する「船の科学館」の土地の一部を、日本財団パラスポーツサポートセンター（パラサポ）に貸与、パラサポが建物を設置し、管理運営を行っている。



構想・計画

○パラスポーツ専用施設の設置

■パラリンピック競技団体の運営支援

- 設置者の日本財団パラスポーツサポートセンターは、2015年にパラリンピック競技団体の持続可能な運営体制構築のため、日本財団の支援により設立された。



<パラリンピック競技団体・パラアスリート支援>
競技団体支援（パラリンピック競技団体の持続可能な運営体制構築）
共同オフィス運営（パラリンピック競技団体との共同オフィス）等

■パラアスリートの練習環境確保が背景

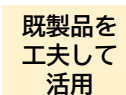
- 車いすバスケットボールや車いすラグビー等の競技者から、体育館の床に傷をつけるのではないかと懸念により、施設管理者側から利用を断られるケースもあり、練習場所の確保が困難であるといった声が挙げられた。
- そこで、東京2020パラリンピックに向け「パラスポーツ専用アリーナ」として、選手や競技団体が練習を行うための施設「日本財団パラアリーナ（パラアリーナ）」の建設に至った。

設計・建設

○パラアスリートの声を取り入れた設計の工夫

■既製品を使用したユニバーサルデザインの追求

- パラスポーツ専用施設であることから、設計・建設にあたり、利用者であるパラアスリートの声を積極的に取り入れ、様々な障害のある選手にとっての使いやすさを追求する。
- 施設内で使用されている設備や備品は、特注品ではなく、ほぼすべて既製品を使用している。そのため、他施設でも採用可能な汎用性の高い設備が多く、競技練習施設として、ユニバーサルデザイン及びバリアフリー対応では、最先端と言えるアリーナとなっている。



既製品を
工夫して
活用

○スポーツは“楽しい” “格好良い” を伝える施設に

■洗練されたイメージの創出

- パラアスリートにとって利便性の高い施設を実現するためのユニバーサルデザインと、障害者スポーツのイメージを払拭し、スタイリッシュなスポーツ空間を創出するためのクリエイティブデザインの双方を取り入れた設計を行っている。
- スポーツは“楽しいもの” “格好良いもの” というメッセージを前面に打ち出し、パラスポーツの魅力伝える普及活動にも寄与している。



管理・運営、改修等

○日々改善、より使いやすい施設へ

■より良い施設とすべく日々改善を図る

- パラリンピック競技の日本代表合宿やクラブチームの練習等、多くのパラアスリートが利用している。
- 一方、施設運営を進めていく中で、利用者の要望により、適宜改修を行うなど、建設時に完璧な施設ではなく、日々改善を図り続けている。

例えば、車いす競技者から「洗面台の下に足がつかえて使いづらい」という声があったため、台下に足が入るようにする、ガラス戸がわかりづらいということから、黒いラインを入れる等、日々改善を進めている。

○普及啓発活動の場として活用

■パラアリーナで普及啓発活動「あすチャレ！」を実施

- パラサポが実施するパラスポーツを通じたダイバーシティ&インクルージョン（D&I）教育・研修プログラム「あすチャレ！」をパラアリーナでも開催している。
- パラスポーツを取り入れた「あすチャレ！運動会」を修学旅行生を対象に実施。
- 「あすチャレ！ファミリーアカデミー」特別版では、車いす利用者の目線でパラアリーナのユニバーサルデザインを見学。



アリーナ

- 利用者の声を聴きながら、パラアスリートが必要とする要素を随所に工夫しながら取り入れている。

他施設では、車いすですportsをすると思われ利用を断られるケースがあった。

<日常的なメンテナンス>

- ・施設管理スタッフが、日常的管理運営の中で、車いすのタイヤ痕等を見つけたらふき取り、適切な床板管理を行っている。



車いすでの利用を前提に、フローリングは傷のつきづらい素材・塗料を使用。



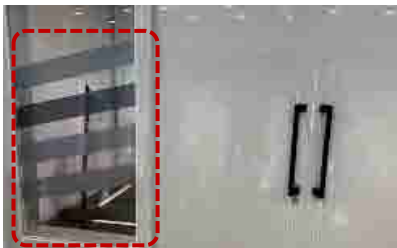
体温管理の難しいパラアスリートも利用するため、大型の空調機4台を設置。

車いす利用者は、一般の体重計で測ることが難しい。



車いすに乗ったままでも使用できる体重計の設置。

弱視等の視覚障害者は、透明のガラスを認識しづらく、扉と誤認し、衝突する恐れがある。



扉のガラス面に黒いテープを貼り付けて視認性を高め、安全性を向上。

■車いす利用者への配慮

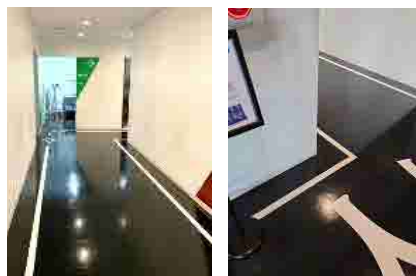
- ・競技用車いすは、一般の車いすに比べて、幅が広い。そのため、競技用車いすでも移動しやすい工夫を実施。

- 扉は引き戸とし、幅員を広く確保する
- 扉の手すりは長くし、どんな体格の方でも掴みやすくする
- 廊下に手すりを設置しない
- 点字ブロックは受付まで、館内では車いす利用がしやすいよう、設置しない 等

移動空間

- 車いす利用者が多い施設であることから、車いすでも移動しやすい環境を実現している。

視覚障害者は、壁を認識しづらい場合がある。



壁の近くの白線により壁との距離を伝達。色の対比によって、視認性を高め、斬新なイメージも創出。

車いす利用者など視線の低い人は案内表記が上にあると見づらい。



各部屋の入口前に部屋名を表記。また、部屋内に埃等を持ち込まないように、マットを設置。

ドアレールが下にあると段差ができ、車いす利用者にとって不便。



車いす利用者が安心して通ることができるよう、上吊り引き戸とすることによって、下の段差を解消。

トレーニングルーム

一般的なトレーニングマシンでは車いす利用者にとって使いづらい。



席を取り外して、車いす利用者も利用可能なマシン（既製品）を設置。

トレーニングマシン同士の間隔が狭いと車いす利用者同士がすれ違いづらく、衝突のリスクがある。



トレーニング器具の間隔や通路を広く取って配置。

多くのパラアスリートが日々練習に取り組んでいますが、選手の方々が大会などで活躍している姿を目にすると、パラアリーナが少しでも役に立てたのではと思い、本当に嬉しい気持ちになります。

特に土日などは予約が重なってしまうことが多いので、パラアスリートの練習環境が全国的に充実していくことを願っていますし、パラアリーナが少しでも参考になれば嬉しい限りです！



スタッフ

更衣室

車いすの足元が入るスペースがないと、ロッカーの奥まで手が届かず使いづらい。



車いすの足元が奥まで入るスペースを設けられており利用しやすい。車いす利用者でも使いやすい高さにハンガー掛けのあるロッカー。

車いす利用者や体幹の弱い人など、立ってシャワーを浴びることができない場合がある。



座って利用できるようにイスやマットを設置。両側からお湯が放出され車いすに乗ったままバスタブに浸かるように体を温めることのできるシャワーも設置。

トイレ

ドアの開閉方向やペーパーホルダーの位置が片側だけでは、障害の程度によって使いづらい場合がある。



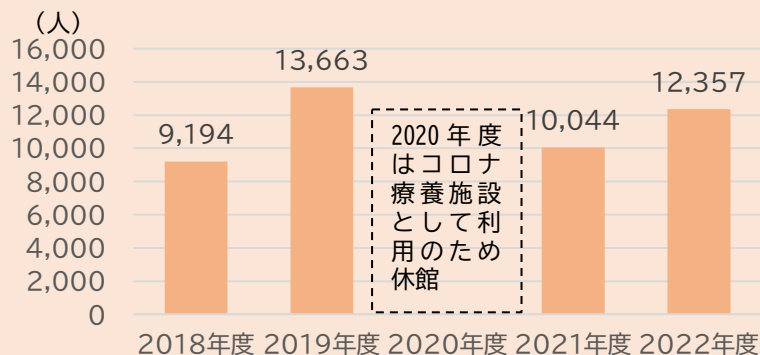
ドアの開閉方向やペーパーホルダーなどの設備を左右対称に配置、利用者が使いやすいトイレを選択可能。また、男女トイレの中にも、広めの居室のトイレを設置し、気軽にトイレを利用することができる。



洗面の淵がえぐられており、車いす利用者が顔をより近づけて利用しやすい。

利用者現状

利用人数



効果

- ・稼働日率100%で、多くのパラアスリートに利用されている。
- ・車いすバスケットボール、車いすラグビー、ボッチャ、パワーリフティング、ブラインドサッカー、卓球、テコンドーなどの選手の利用が多い。シットイングバレーボールなども定期的な利用がある。

利用者Voice

- ・パラアスリート目線で作られていて、練習を行う際、とても使いやすい。
- ・車いす競技だと、練習できる場所が少ないため、パラアリーナがあることによって、練習環境が充実している。
- ・多くのパラアスリートが集まる場所なので、他チーム・他競技から刺激を受けることも多い。



“してみよう、見てみよう、支えてみよう”の意欲を喚起する市民のための体育館

設置	袋井市 市民生活部スポーツ政策課 スポーツ施設係
運営	シンコースポーツ株式会社 ☎ (0538) 31-2070 FAX (0538) 31-2071

- 所在地
・静岡県袋井市 久能1912-1
- アクセス
・袋井駅から徒歩で約35分

DATA

- 竣工
・2019年
- 規模
・延床面積
7,768.51㎡
- 総事業費
・約42億4千万円
 - 【土地購入費】社会資本整備総合交付金 28,600千円
 - 【建設工事費】社会資本整備総合交付金 39,420千円
 - 緊急地震・津波対策交付金16,585千円
 - 学校施設改善交付金 241,188千円
 - スポーツ振興くじ助成金 4,800千円

■主な設備



メインアリーナ
観覧席固定500席・
可動式約540席



サブアリーナ
約790㎡



武道場兼多目的フロア
約581㎡

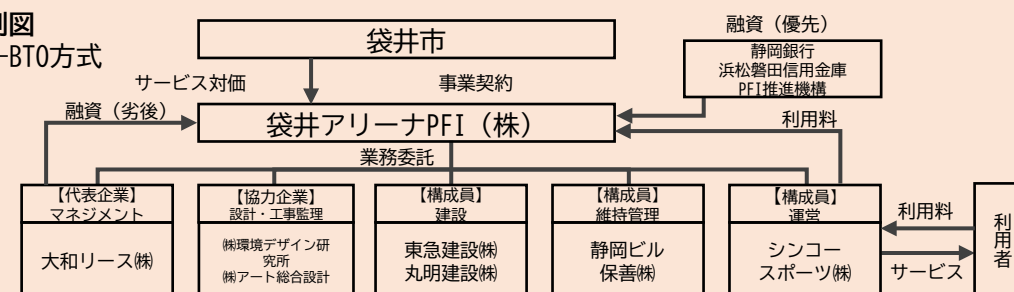


キッズルーム
156㎡

- <その他>
- ・トレーニング室
 - ・多目的室（研修室）
 - ・会議室
 - ・談話室
 - ・健康・体力測定室
 - ・授乳室 など

■体制図

- ・PFI-BT0方式



①構想・計画

○より多くの市民のための施設に！

■竣工から30年以上経過し、市民の要望への対応

- ・市のまちの将来像「日本一健康文化都市」の進化に向けた、健康増進施設が必要であった。
- ・また、旧体育館は、竣工から40年以上が経過し、老朽化が進むとともに、耐震性能も十分ではなく、大規模災害時の避難所として利用はできず、危機管理上課題を抱えていたため、新体育館の建替え事業へ。

■市民スポーツの拠点によるシンボルエリアの創出

- ・同地域内に「健康」の拠点施設である総合健康センターとの連携、エコパスタジアムとの棲み分けを考慮し、「市民」のための施設として検討が行われ、袋井市が掲げる「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも親しみ、楽しむことができるスポーツ文化の推進」という基本方針の基、8つのコンセプトが示される。

- | | |
|-------------------|------------|
| ①「するスポーツ」 | ②「見るスポーツ」 |
| ③「支えるスポーツ」 | ④交流を生み出す施設 |
| ⑤袋井らしいおもてなしを感じる施設 | |
| ⑥市民の元気があふれる施設 | |
| ⑦災害時の避難拠点としての施設 | |
| ⑧地球にやさしい施設 | |

→事業の効率化、質の高い公共サービスの提供、費用対効果を最大限にする目的で**PFIの採用**

②設計・建設

○8つのコンセプトに応じた設計・建設の実現

■PFI事業者の提案による更なるユニバーサルデザイン化へ

- ・施設の構想段階ではユニバーサルデザインありきではなかったものの、基本方針に基づき、PFI事業者から「より多くのひとに利用してもらえる施設」という提案があり、誰でも利用できる体育館を実現し、施設全体にユニバーサルデザインの要素が多く盛り込まれることとなった。

①「する」スポーツ



世代を問わず多様な人々が気軽な運動から本格的な競技スポーツまで対応できる空間

③「支えるスポーツ」



プライバシー性の高い空間に配慮し、より多くの市民が活用しやすいさまざまな場所の提供

⑥市民の元気があふれる施設



子どもから高齢者までスポーツを通じた多世代交流を生み出すことで市民が元気になる施設

②「見る」スポーツ



高い視認性と透過性の高い空間を構成、見る側・見られる側双方の意欲を刺激

④交流を生み出す施設



交流を促進する5つの要素を持つ空間にアメニティ性を重視した交流空間の整備

⑧地域にやさしい施設



ライフサイクルコストの削減と自然エネルギー活用や省エネルギー手法を導入

③管理・運営

○施設の魅力を高めるためのサービス

■様々な利用属性へのサービス提供

- ・初心者からアスリート、子どもから高齢者、外国人まで様々な工夫によるサービスを提供する。

初心者からアスリート



ウェルネスシステムの導入



多彩な教室プログラムの開催

障害者や外国人等



様々な車いすの配置



対話支援システム等

市民利用



総合防災訓練



カフェの運営

メイン・アリーナ

- どんな属性でも気軽に「する」スポーツ、「みる」スポーツを行うことができる工夫

車いす利用や市民イベント等、様々な活用するための床面の安全性の確保が求められる。



フロアの床板にタラフレックスを採用することによって、傷が付にくく、手入れもしやすい。



床を養生せず、机や椅子を用いたイベントが可能。車いす競技等も安全・安心に実施可能。



入口正面に車いすスペースを確保、1Fエントランスからエレベーターを経由し、車いすで観戦が可能。

聴覚障害者は、音の情報を正確に得ることが難しく、特に緊急時にはリスクとなる。



高性能音響設備（360度無指向性）を設置し、アリーナ全体に均一に音を届けることができ、難聴者にも優しい音を提供。

様々な利用者が安全に利用することができるよう、曲がり角等に配慮することが必要である。



見通しを確保するため、四隅に退避場所を設けて安全を確保。観戦の際に加え、日常時はランニングを楽しむことができる。

道具や設備が整っていないため、パラスポーツに取り組むことができない状況である。



様々な備品を取りそろえ、パラアスリートの練習や国内大会、市民の理解醸成イベント等での使用も可能。

施設内全体

- 多くの人が施設を利用しやすくするための工夫

身体に不自由な障害者等が、館内の移動や階段の乗り下りに対して苦痛に感じる場合がある。



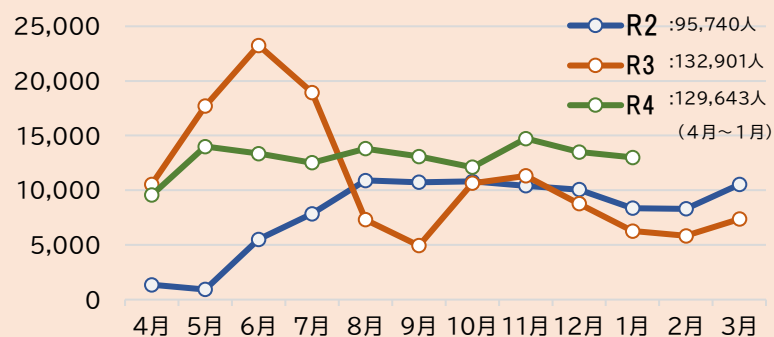
肢体不自由者や高齢者に配慮して、階段の蹴上（段差）を通常より低くし、左右両側に手すりを設置。



館内に段差をなくし、エレベーターで観客席のある2階まで上ることができる。広々とした空間としている。

利用者現状

利用
人数



スポーツ施設利用者数は増加傾向にある（R3年度利用者数はワクチン接種利用者含む）

効果

【PFIを採用したことによる効果】

- PFIを採用したことで長期的視野に基づいた施設運営が可能となった。
- PFI事業者の裁量範囲の幅が広く、民間の経験知識や創意工夫を十分に発揮することができ、その結果、様々な利用者が気軽に利用できている。

利用者
Voice

- 全体的にとっても優しいつくりになっている。例えば、車いす用出入口は、身体障害者用駐車場のすぐ脇にあり、雨に濡れずに入る事ができる。
- トイレの位置がわかりやすくてよい。
- 子どもの遊び場もあり、気兼ねなく遊ばせることができ、ジムもあって使いやすい。

キッズルーム

- 子どもも親も共にスポーツに親しむことができる工夫
- 子どもの安全面を考慮し、親も安心してスポーツを行うことが可能

悪天候の日に、子どもが外では遊べないため、いつでも楽しく遊ぶことができる環境が求められている。

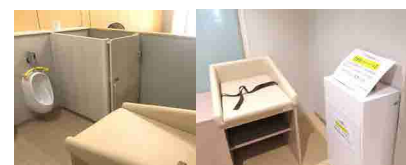


屋内に大型遊具を配置。小さい頃からスポーツを身近に感じることができる環境を整備。

子どものことを見守り、安心して遊ばせつつ、親もともにスポーツ等に取り組むことができる環境がない。



ガラスの仕切りで双方の部屋から視認可能。親が子どもを見守りながらトレーニングができる。



子どもが安心して利用できるようキッズトイレやベビールーム（授乳室）等を完備。

トイレ・更衣室

- 安心してスポーツに親しむことができる工夫

色がなく、無機質なロッカーだと、利用している場所を忘れてしまう。



ロッカーのキーホルダーを段数によって色分け、自身の使用ロッカーを探す際に目安をつけやすくしている。

入室の際、屋内靴等を履き替えることが面倒である。



靴のまま履くことができるスリッパも用意し、負担なく利用することが可能。

大会や利用者の状況によって、必要となる規模が異なる。



男女更衣室の表示板を張替え可能なマグネット式とし、相互に利用できるようにしている。

■屋外木製屋根付き遊具設置

屋外の子ども広場に屋根付きの遊具を設置し、屋外でも子ども達が遊ぶことができる。また、カフェも併設し、親子でゆったりと過ごすことができる。





だから、みんなが使いやすい施設

設置
運営

一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会
☎ (0857) 50-1071 FAX (0857) 50-1074

- 所在地
・鳥取市布勢146-1
鳥取県立布勢総合運動公園内
- アクセス
・鳥取駅から車で約15分

DATA

- 竣工
・2020年

- 規模
・延床面積 694.43 m²

- 総事業費
・約3億円（日本財団の助成10/10）

■主な設備



スポーツ広場
バドミントン2面分



トレーニングルーム



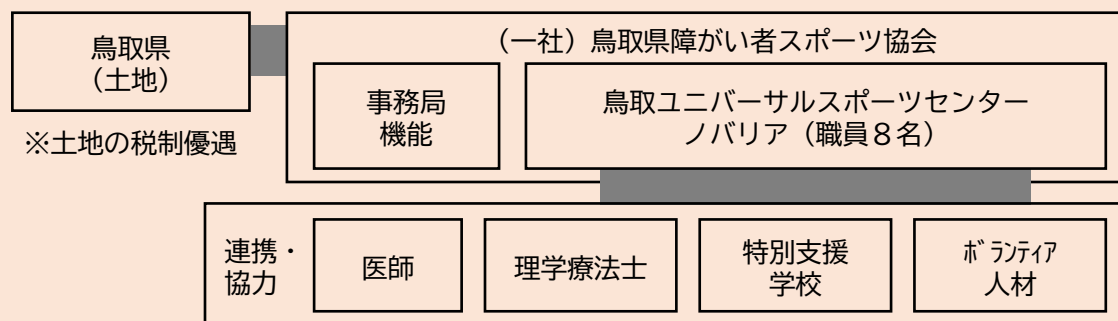
マルチルーム
定員30名



相談室

- <その他設備>
・交流スペース
・更衣室（男女別）
・シャワー付き更衣室
・トイレ
（男女・多目的）
・器具庫
・駐車場

■体制図



構想・計画

○鳥取県における障害者スポーツの拠点へ

■バリアフリーの枠内にとらわれず、誰もが使える施設へ

- 鳥取県と日本財団とで締結した協同プロジェクトの一つとして「障がい者スポーツの拠点」とすることを目的として設置。



- コンセプトは「障がい者が新たにスポーツを始めることのできる場、障害の有無にかかわらず交流ができる場」

○様々な関係者の巻き込んだ検討委員会の設置

■利用当事者が構想段階から参加

- 鳥取県、障がい者スポーツ協会に加え、身体（聴覚・視覚など各種）、知的、精神という3分野の障害者団体担当者が入る検討委員会を開催、当事者側からの意見を集約して方向性を決定。



- 所有者であり、運営者でもある鳥取県障がい者スポーツ協会のスタッフも検討委員会に参加。構想段階から運営スタッフが入っていたことで、対応の現実性とスタッフにとっての管理のしやすさも踏まえて議論を重ねた。

設計・建設

○当事者の声より、限られた敷地を最大限に

■限られた敷地に必要な要素を入れ込んだ施設

- 事業費と敷地の兼ね合いから、必要となる設備を優先的に設計。
- 館内すべて土足利用を可能とし、誰もが気軽に入館できる工夫。

例えば…シャワー室は誰でも利用できる個室更衣室に設置



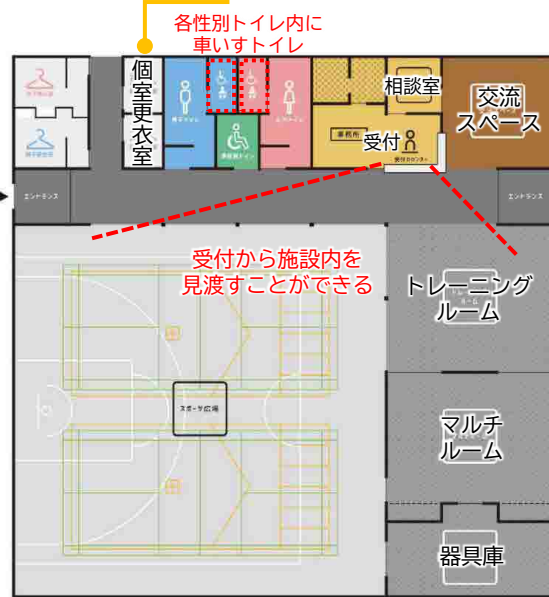
個室更衣室（シャワー）



トイレ（車いすトイレ含）



スポーツ広場（土足可）



管理・運営

○誰もが参加できるスポーツ教室の開催

■多種多様なプログラムの企画・実施

- 障害のある方もない方もスポーツを通して交流することができる教室を開催し、多くの利用者が参加。



○ボランティア（スポーツFunネット）の人材育成

■人材育成プログラムの展開

- 障害者がスポーツを始める、続けていくことをサポートする人材、また、一緒にスポーツを楽しむ！応援してくれる人材の育成を実施。
- 研修を受けたボランティアは、ノバリアだけではなく、その他の地域のスポーツ施設での支援等、県内に波及。



アリーナ
(スポーツ広場)

- 館内すべて土足利用を可能とし、誰もが気軽に入館できる工夫
- 衝撃を緩和するタラフレックスを採用し、利用者の安全・安心確保
- 受付などからスタッフの目が行き届くよう、極力側壁をなくした設計

発達障害者や知的障害者等をはじめ、暴れたり、激しく動いた際、転倒のリスクが高い。



床にタラフレックス採用、転倒の際のケガのリスクを低減。

利用者が急変、利用に際して困りごと等が生じる。



側壁を極力なくし、受付からスタッフが施設内を見通せるよう工夫。

障害者スポーツのラインを毎回設置することが利用者の負担となる。



ボッチャのラインを常設。その他、バドミントンとバスケットコート（半面）。

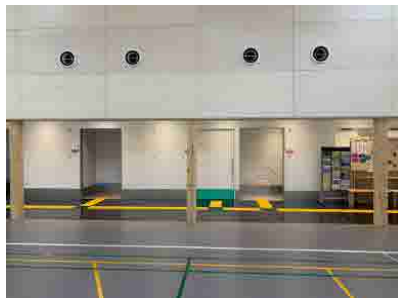
施設内全体

点字ブロックは、電動車いすや力が弱い方にとって障壁となるとともに、つまづく利用者もいる。



利用者の障壁とならず、かつ視覚障害者がわかる点字ブロックを採用。

肢体不自由者や高齢者等、靴の脱ぎ履きが大変である。



館内全て土足利用を可能。利用者やスタッフが定期的にモップ掛けを行い、適切に管理。

視覚不自由者は、同じ色だと視認しづらい場合がある。



それぞれのロッカーと戸の色を格子状にすることで視認性の向上。

その他の取組

スポーツ施設まで行くための交通手段がなく、アクセシビリティが弱い



事業者と連携してUDタクシー（車いすが同乗可）を県で実施。スポーツ教室への参加者の運賃を補助。ドライバー研修等も実施。

＜効果＞
・利用客UP
・幅広い客層の利用
・高齢者、障害者のリピート乗車
・外出しやすいという声

トレーニング
ルーム 他

- 障害者スポーツの資格を持ったスタッフによる指導の実現
- 誰もが利用、楽しむことができるコンテンツの充実

障害者等でも利用できる機器がわからない。



理学療法士推薦のトレーニングマシン各種を設置。障害者でも利用できる機器。

利用者の障害の度合いや状況に適したトレーニング方法がわからない。



障がい者スポーツ指導の中級以上の資格を有したスタッフが常駐。

スポーツを行う機会が少ない。



ほぼ毎日、障害者だけではなく、誰もが参加することができるスポーツ教室が開催

状況の異なる利用者からの相談にのることが難しい。

相談室



医師や理学療法士が定期的にスポーツを行う際の疑問や悩みの個別相談を実施。



・車いす等、目線が低い方のために、低い位置にサインを設置。



・交流スペースの設置による利用者のコミュニケーションの醸成。



・マルチルームを用意し、何かあった際の個室として利用。その他、会議やダンス練習等でも利用可。



・車いす専用、ハートフル駐車場を設置。施設付近には屋根を設け、雨にも濡れず施設内へ。

その他のスポーツ施設においてユニバーサルデザイン化が進んでいない。



○サポーター 463名
○派遣実績 246件
(令和5年1月末現在)

「ノバリア」の機能の中部・西部地区への展開として、ノバリアサテライトセンターを設置し、中部・西部地区の障がい者スポーツ教室の拡充、スポーツ相談事業の展開を図り、中部・西部地区の障がい者スポーツのセンタースタッフ機能を担う。

利用者現状

利用人数

[利用人数]
12,780人

[教室延べ参加人数]
4,651人
2,857人 (うち、障害者数)

[トレーニングルーム延べ参加者数]
3,100人
2,730人 (うち、障害者数)

効果

- ・健常者と障害者が交流する機会が増えている。（障害者が気兼ねなく利用可）
- ・ウッドデザイン賞2020「ソーシャルデザイン部門」を受賞し、市内外に認知
- ・特別支援学校の卒業生のスポーツ機会の創出

利用者Voice



靴のまま入れたり、車いすのタイヤを拭かずに利用できるのが便利



自分の障害に合わせたプログラムを組んでもらえて助かった

障害者は、無料なので年間途中でも登録しやすい



さまざまなスポーツ教室があるため、自分にとっては新しいスポーツと出会うことができる



交流スペースや芝生がおしゃれで福祉施設という感じがしない
コミュニケーションの場となっていて楽しみ





設置	武豊町
運営	指定管理者：武豊ウエルネスパートナーズ ☎ (0569) 84-0220

- 所在地
- ・愛知県知多郡武豊町忠白田11-7
- アクセス
- ・JR武豊駅から車で4分

DATA

■竣工

・2022年

■規模

・延床面積 5,553.80 ㎡

■総事業費

・約41億円(税込)
ー学校施設環境改善交付金

■主な設備

屋内温水プール
メインプール25m×
8コースほか

スタジオ

トレーニングルーム

温浴施設

<その他>
・ジャグジー
・売店
・会議室
・レクリエーション
スペース
・キッズスペース
・多目的室
・飲食販売スペース 等

■体制図 DB0方式

武豊町

指定管理
15年間

武豊ウエルネスパートナーズ株式会社

代表団体

・奥村組名古屋
支店

建設

・奥村組名古屋
支店
・岩部建設

運営

・アクアティッ
ク

維持管理

・サンエイ
・エイゼン

設計・監理

・三橋設計名古
屋事務所（協
力企業）

○住民の健康増進と学校教育の機能を併せ持つ施設

- 町民の健康増進のための施設へのニーズ
- ・本町では、近年の健康志向ブームによりメタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームの予防や改善として運動を始める人が増加していることから、誰でも無理なく実践できる水中運動が注目されており、住民から健康づくりができ、集い・憩える温水プールの建設の要望が多くあった。
- 高齢者にとっては気軽に始めることができる運動である。屋内温水プールを利用することで天候に左右されることがないため計画的に運動を継続することが可能
- 老朽化する学校プールへの対応
- ・武豊町内4つの小学校において、プールの老朽化が進行、その改修に膨大な費用を要することが見込まれていた。また、小学校のプールは屋外で天候に左右されるため、必要な水泳の授業時間を確保することが難しい年もあるという課題が見られ、その対策が必要となっていた。

町民にとって交流の場ともなる屋内温水プール

町民の健康増進機能

✕

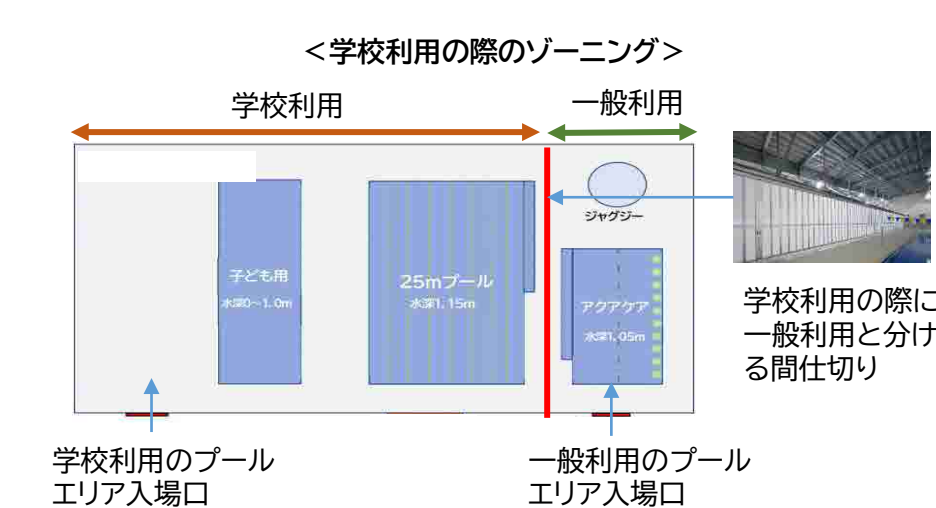
小学校プール代替施設

基本
理念

・誰でも親しめる
・様々な交流
・安全で快適
・環境にやさしい
・始めやすい

○一般利用と学校利用との動線を分けた設計

- 利用者の安全性や利便性に配慮した空間構成
- ・構想段階から一般利用と小学校の教育利用との共用を想定していたため、双方の安全性や利便性に配慮し、両者にとってわかりやすいゾーニングや空間構成を実現している。
- ・具体的には、建物入口や更衣室、プールエリアの入口に至るまで学校利用と一般利用との動線を分けている。また、学校利用の際は25mプールと子ども用プールを学校が使用、25mプールとアクアケアプールとの間に設置した可動式の間仕切りを閉めることで双方が目線を気にせず安心して利用できる設計とした。



○一般利用と学校利用が共存した運営の実施

- 様々な一般利用者に配慮した取組
- ・利用料金については、障害者は通常の5割、その介助者は1名無料、18歳未満障害児は無料とし、利用促進を図っている。
- ・また、多くの市民の方に利用してもらうために、エントランスに「意見箱」を設置し、毎月その意見に対する回答を行い、改善を図っている。
- ・施設のホームページに加え、月1回、町の広報誌や各種SNS等を用いて積極的に情報発信を行っている。

■学校優先での日程調整

・学校教育利用は1学期（4月～7月）の午前中で、その間プールは学校利用優先としている。

・4校が利用するため、各校の授業実施日を曜日固定している。

	1・2 時限	3・4 時限
子ども用 プール	低 学年	低 学年
メイン プール	高 学年	高 学年



プール

- 学校教育利用と一般利用の共同利用のため、子どもから大人までが安全・利用しやすい空間を実現するための様々な事項が配慮されている。

プールサイドが狭いと、学校教育利用が難しいとともに、親子等の一般利用者の歩行や車いす利用者、足が不自由な高齢者等の通行等の妨げになる恐れがあるため、スポーツを「する」場として安全面を配慮した工夫が求められる。



【要求水準書】

- ・プールサイドは、学校利用時、児童 170 人以上の同時利用に対応できるスペースを設けること。
- ・学校授業時に授業見学者が待機できるスペースをプールサイドに設けること。

＜一般利用への波及＞

学校利用時の要求水準が一般利用の際、ユニバーサルな空間の実現に寄与している。

- 広々としたプールサイドによる高齢者や障がい者も歩きやすい環境
- 親子での利用においても、親が安心して子どもと一緒に運動することができる環境
- 障害児を対象としたプログラムも安全な環境で展開

プールサイドは、滑りやすく転倒してケガのリスクにつながりやすい環境である。



滑りにくい床にすることによって、子どもや足が不自由な方にとって安全な環境。

子どもと大人では体格が異なることから、水道や目洗い場の高さに留意する必要がある。



高さが異なる洗面を設置するとともに、車いす利用者も利用できるよう、台の下もあけている。

プールの入水は、足が不自由な利用者は負担となり、利用の障壁となる。

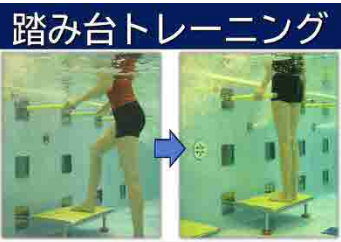


プールにスロープを設け、足の不自由な方だけではなく、車いす利用のまま入水することが可能。

プールで泳いだり歩いたりするなど、なかなか身体を動かすことが難しい利用者もいる。



運動補助器具を設置したアクアケアプールを設置、様々な運動法を提案し、誰もが気軽に利用できる工夫を実施。



踏み台トレーニング

高齢者等の中には、入水直前まで杖を使わないと転倒のリスクがある。



プールサイドで杖を利用できるよう、プールサイドにつえ立てを設置し、安全を確保。

障害者等は介助者がいる場合もあり、更衣室等の障壁がある。

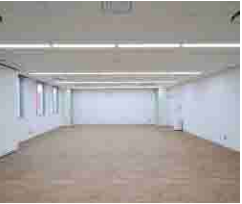


十分な広さもあり、下段が開いているロッカーは車いす利用者も手が伸ばしやすい。車いすトイレも更衣室内にあり、水着のまま利用可。

障害者は立ったままシャワーを浴びづらい。



座ってシャワーを浴びることができるように椅子を設置。



更衣室としても利用できる会議室



プールで泳いだ後の冷えた身体を温めリラックス効果もあるジャグジーと温浴施設も設置

←子ども用プール側

基本	8	7	6	5	4	3	2	1
	遊泳	遊泳	25m	50m	50m	25m	練習	歩行
2コース使用	8	7	6	5	4	3	2	1
	水泳教室	水泳教室	遊泳	25m	50m	25m	練習	歩行

25 m プール等は、様々な利用を可能とするため、コースごとに利用方法を決めて運営している。

その他の施設

授乳スペースは男性が入りづらい。



男性も入りやすいよう授乳スペースを「ベビーケアルーム」とネーミング。また、他者がベビーケアルームを使用中でも調乳できるよう、浄水給湯器は外に設置。

一般用のトレーニングマシンでは車いす利用者が使いづらい



椅子をずらすことにより車いすに乗ったまま利用可能なトレーニングマシン。

雨の日等、車いす利用者が入口まで濡れてしまい、負担となる。



入口が近く、屋根がある部分に広いスペースの優先駐車場を設置

休憩や子どもの待ち時間に過ごす場所がなく、交流も希薄である。



プールやトレーニング室を利用しなくても利用できる飲食販売スペースと休憩スペースの設置。

利用者現状

利用人数

【利用人数】

- ・一般利用 44,437人
- ・会員 49,708人
- (2022年4月～2023年1月)

【学校教育利用】

- ・学校教育利用は4校のうち、児童数により2校が20回、もう2校が35回の授業を実施
- ・2022年4月～7月までの延べ利用者数は11,481人
- (参加者10,789名、見学者692名)

効果

- ・オープンしてから利用者の評価も概ね好評である。
- ・特別対応が難しかった例や想定と異なった点などは見られていない。
- ・開業後間もないが、現状では「町民の健康増進」「子どもの健やかな成長」「交流の場の提供」という町の条例に明記された方向性に資する施設としての役割を果たしている。

利用者Voice

- ・とてもきれいで、プールのコースもたくさんあって泳ぎやすい。(一般利用)
- ・トレーニング室を利用したのですがスタッフの対応、器具ともに素晴らしいです。利用料金も安いと感じました。(一般利用)
- ・施設スタッフが児童に声をかけてくださり助かった。(学校の教職員)
- ・トイレに行きたくなったり体調不良の児童に対する監視員の対応が早くて良かった。(学校の教職員)

優先的な改修の実施により、老朽化施設をより使いやすく



設置

舞鶴市役所 市民文化環境部 スポーツ振興課

運営

舞鶴スポーツネットワーク
☎ (0773) 66-1061 FAX (0773) 66-2850

所在地

・京都府舞鶴市上安久420

アクセス

・京都交通バス「税務署前バス停」下車、徒歩10分

DATA

■竣工

・1986年
(2019年改修)

■規模

・延床面積 7698.93 m²

■総事業費

・約9千万円
-スポーツ振興くじ助成金 56,884千円
(トイレ・更衣室バリアフリー化工事)

■主な設備



アリーナ
観覧席1,024席



剣道場
観覧席250席



柔道場
観覧席244席



レスリング場
220m²

<その他>トレーニング室/会議室 等

■体制図

舞鶴市

指定
管理
5年間

舞鶴スポーツネットワーク

指定管理（経理）
美津濃株式会社

指定管理(管理運営)
ミズノスポーツ
サービス(株)

各団体との調整
(一財)舞鶴市
スポーツ協会

改修のための構想・計画

○東京大会ホストタウン採用決定がきっかけに

■竣工から30年以上経過し、様々な要望に対応できなかった

- 1986年の竣工から30年以上が経過しているが、この間、トイレ設備は未改修だった。施設が古いことから、障害者スポーツの利用者や、年配の利用者に向けたバリアフリー化等、以前から要望が挙がっている状況だった。

■誰にとっても利用しやすい環境へ

- 2016年6月、舞鶴市がウズベキスタン共和国のホストタウンに決定し、柔道、レスリング代表チームが舞鶴文化公園体育館を利用することとなった。



- 施設老朽化によって様々な箇所の改修が必要であるものの、予算も限られる中で、「スポーツをする人だけでなく、見る人も含めて誰もが使いやすい施設」とするために、この機会をきっかけに、多くの来館者が利用し、またソフト面での利便性向上が難しいトイレについて、重点的に改修することとした。



和式トイレ

外国人
障害者

×利用できない

高齢者

△利用しづらい

女性・子

△利用したくない

みんなにとって
利便性が向上



洋式
トイレ等
改修

改修等

○誰にとっても使いやすいトイレとする改修の実施

■清潔感・イメージの向上

- 多くの人が利用する場所であつたトイレを“施設の顔”として捉え、様々な支障が生じていたトイレを、全洋式化や乾式化を図り、清潔で快適な空間となるよう、設計・改修している。



■様々な立場の利用シーンを想定した改修

- 本施設を利用する様々な立場の利用シーンを想定した改修に加え、管理者にとってもメンテナンスしやすい空間、製品の選定、環境への配慮等、誰もが利用しやすい空間を実現している。

利用者

◆女性競技選手や利用者



スタイリングコーナーの設置

◆大柄の選手や外国人



標準的なブースでも広めの設計

管理者

◆清掃のしやすさ



壁掛小便器の採用

管理・運営

○快適な利用を実現し、高い評価

■すべての利用者が快適に利用

- まだまだ課題は残るものの、ホストタウンとして外国人選手を無事受け入れるとともに、多くの競技者や観客、障害者競技選手、車いす利用者、子ども連れ、外国人などすべての利用者に対応したユニバーサル空間を実現し、施設に対して高い評価を実現している。



ホストタウンとしての受け入れ



大会の招致・開催

トイレ（改修）

- スポーツを「する」、「みる」両方の観点から誰もが使いやすい施設にするためにトイレを重点的に改修

子どもや外国人等は、和式トイレを使うことができず、その他の属性も不便を感じることもある。



最新の洋式トイレに改修し、誰もが利用できる環境を実現。

子どもや子連れの利用者も多いが、子どもの身体にあった高さになっておらず利用しづらい環境がある。

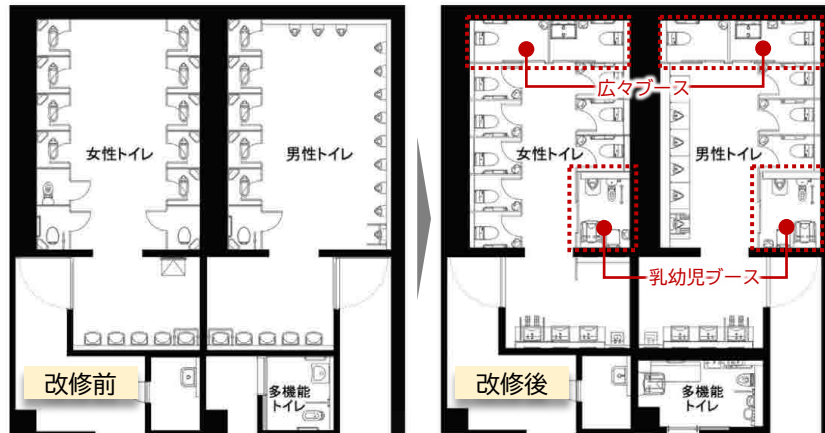


洗面の高さを1カ所低く設置。多機能トイレの混雑を防ぐため、男女トイレに幼児用ブースを設置し、子ども連れに配慮した器具を充実。

様々な身体状況の競技選手や利用者に対応できる環境が求められている。

多機能トイレを配置。コンパクト機能を採用し、省スペース空間でも利便性の向上を実現。

外国人選手や体格が大きい選手は、規格のトイレの場合、空間が狭く利用しづらいが、既存の構造・空間のまま、利便性を高めるための改修をどのようにしていいかわからない。



トイレの壁の位置をほとんど変えずに、もともと広くあった通路を活用し、大便ブースを広くゆったりした空間に改修。（上図：1Fトイレ図面）一般ブースでは幅1,000mm、広タブースでは幅1,300mmを確保し、広い空間を実現（規格は幅800mm）。



広タブース（ブース内にベビシートを設置し、子どもや高齢者等の付き添いで利用も可能）



乳幼児連れブース（男性トイレにも設置し、周りの視線を気にせず、子どもの世話を可能）



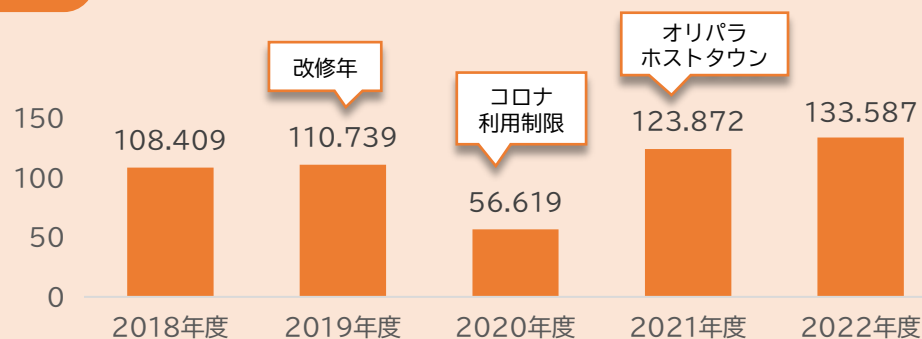
1F多機能トイレ



2F多機能トイレ

利用者現状

利用
人数



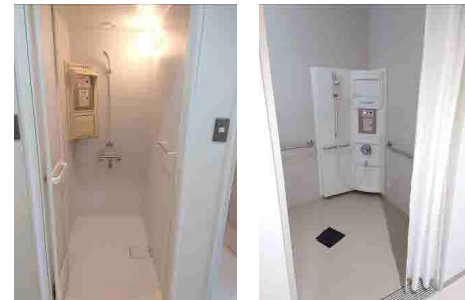
効果

- 2021年度から2022年度の3年間は、新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場として使用、接種のための来館者を含む。

更衣室（改修）

- 誰もが使いやすい空間となるよう、各利用者に配慮した改修を実施（競技選手、女性、子ども、車いすなどの利用者）

シャワー室が古いため、施設利用者に適した環境になっておらず、不便を感じる場所となっている。



男女シャワー室において、車いす利用者も旋回しやすい広さを確保。（幅800mm×奥行1,200mm）



車いす利用者をはじめ、誰もが開けやすいよう、引き戸を採用。洗面も様々な利用者に配慮し、高さの異なるものを設置。



女性競技選手や利用者に配慮して、お化粧直しや身支度がしやすいよう、スタイリングコーナーを設置。

その他、施設内の工夫

- 施設内のスペースを最大限活用し、利用者の利便性を高めるための工夫を実施

冷暖房がないため、利用者は、夏場や冬場での体温調整が難しい環境下となる（トレーニング室）。



予算の問題から空調設置ができないため、夏場は扇風機を冬場は暖房器具を設置。

施設内において、授乳室等の場所がなく、乳幼児がいる利用者にとって不便な環境である。



空きスペースを有効活用し、通路端にベビーベッドを設置し、乳幼児連れの利用者を配慮。

高齢者や子連れ利用者など、施設内に気軽に身体を休めるスペースが少ない。



施設内の限りあるスペースを有効活用し、通路にベンチを設置。

【利用者満足度】

- 改修後、施設が利用者に対して実施した満足度に関するアンケート調査では、回答者の85%が「トイレ・更衣室に満足している」と回答。

利用者
Voice

- トイレ・更衣室（シャワー室）が使いやすかった。（ウズベキスタン代表選手団）



- 改修によりきれいになり、個室が広くなったことで使いやすくなった。（一般利用者）

すべての子どもたちが「生きる力を育む、未来の遊び場」



設置

山形市 こども未来課

運営

株式会社 夢の公園
☎ (023) 676-9876 FAX (023) 676-9878

■所在地
・山形県山形市大字片谷地580-1
■アクセス
・山形駅西口から車で約20分

DATA

- 竣工
・2022年
- 規模
・延床面積 3175.90 m²
- 総事業費
・約38億5千万円
－厚生労働省次世代育成支援対策施設整備交付金 (869万円)

■主な設備



体育館



大型遊戯場



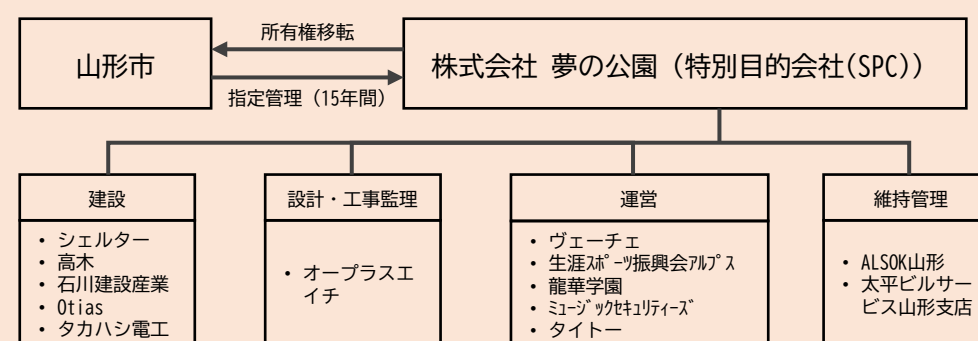
ものづくりのへや



こそだてそうだんしつ

<その他>
・図書コーナー
・えいぞうとおとのへや
・はなしあいのへや
・食育カフェ
・あかちゃんきゅうけいしつ
・ゆうぐエリア 等

■体制図 ・PFI-BT0方式



構想・計画

○屋内型の新しい子育て支援拠点

■雪の多い冬も遊べ、子育て相談や保護者同士の交流ができる施設

- ・山形市の重点施策として、「子育てしやすい環境の整備」が掲げられ、市北部に、児童遊戯施設が作られた結果、市南部にも同様の施設ニーズが高まった。
- ・また、雨天時や冬期間に子ども達が遊べる屋内施設が少なかったことから、子育て中の保護者から、「子どもが安全にのびのびと遊べ、子育てについての相談や、保護者が交流できる機能をもつ児童遊戯施設」に対する多くの要望を受け、以下コンセプトで施設を計画。

障がいの有無や、人種、言語、家庭環境に関わらず、多様な個性や背景を持った全ての子どもたちの遊びと学びの場

- ①誰もが使える空間の創出
- ②安全な空間の確保
- ③自由な遊びの創出
- ④子育て支援の充実
- ⑤地域や教育機関との連携
- ⑥地域への開放
- ⑦気軽に利用できる施設運営

- ・構想策定にあたっては、市民からのニーズを把握するため、アンケート調査や障害児団体に対するヒアリング等を実施した。

○誰もが利用できる「インクルーシブ」な施設

■PFI方式による民間の発想とノウハウを活用

- ・基本構想として、建物と遊具の一体化、創作活動や五感を刺激することができる施設のほか、障害の有無に拘わらず全ての子どもが利用できる施設を実現するため、PFI事業を採用。

■異なる背景・特性をお互い認め合い、共に生きる

- ・性別や年齢、人種・国籍の違い、障害の有無、家庭環境など異なる背景や特性を持つ人々がお互い認め合い、共に生きるという「インクルーシブ」の考え方を採用。



(出典) 施設ホームページパンフレット

設計・建設

○子ども達の感性を刺激し、多彩な遊びを触発する空間

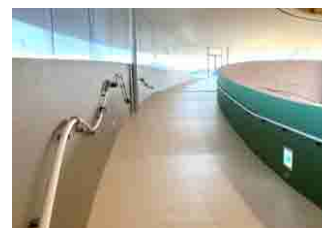
■周囲の自然と屋内が一体となった空間設計

- ・窓を広くし建物を壁で仕切らず、スロープで内部を回遊できる構造とすることで、屋外とも一体となったのびやかな遊びと学びの場を実現。
- ・広大な窓からは蔵王連峰を一望することができ、自然との一体感が感じられる。



■バリアフリー設備も遊びや学びのきっかけに

- ・施設を回遊できるスロープや曲線を描く手すりなど、インクルーシブな視点から必要となる設備も新しい遊びや学びのきっかけとなるデザインを採用。



■自然のなかで感性が刺激されるデザイン

- ・地元産木材を多用し、室内でも自然の中にいる感覚となり、子ども達の感性を刺激。



管理・運営

○気軽に楽しく来館できる雰囲気づくり

■デジタル技術の活用など様々工夫

- ・子ども達の異なるバックグラウンドを意識させることなく、気軽に利用してもらえるような取組を実施。



デジタルアトラクション 触覚を楽しむ絵本も設置

■アテンダント養成によるサービス向上

- ・施設の使い方や遊びのすばらしさを子ども達に伝えながら、来館者を見守り・サポートをしていただくアテンダントを養成し、施設管理者と共に持続的な運営を実現。



たいいくかん ・大型遊戯場

- 山形産の木材をふんだんに使用し、子どもの年齢、性別に問わず思いのままに遊べ、多様でチャレンジングな遊びを誘発

自然を感じられる環境で遊ばせることのできる施設が少ない。



木材を多用した丸みを帯びたデザイン。自然の中にいる感覚で、子ども達の感性を刺激する。

屋内では子ども達が自ら工夫して遊びを考えられる環境を提供しづらい



エントランスから運動場への階段は段差を変えて遊びにも使える設計。段差が高い部分は椅子にもなり、子どもの成長段階に応じた柔軟な用途になる。

館内での取組

- 施設の魅力を高めるための様々なソフトな取組やサービスの展開

誰もが気軽に参加できるイベントが少なく、施設を利用する機会がない。



施設主催イベントのほか、企業や個人のボランティアが行う約30の市民ワークショップが開催（ベビーマッサージ教室、産後の骨盤ケア教室、アロマクラフト体験など…）。



健常者と車いす利用児と一緒に、地元の伝統祭り（花笠音頭）のWSを行い、様々な属性の子ども達へ地域文化の継承。

利用者現状

利用
人数

【目標年間利用者人数】
15万2千人

【2022年4/18～11/10利用者数】
（～10/8までコロナ禍により山形市民のみに利用制限）
月間約9000人

【2022年10月利用者数】
（10/8～居住地域の利用制限を解除）
月間約1万3400人
（年間ベース約15万人）

効果

- ・PFI方式を採用し、民間事業者のノウハウを活かすことができ、かつ入札後のVFMが約7%と算定されるなど、大幅な費用の節約にもつながった。
- ・オープンから半年間で、建築関係、学校関係、自治体を中心に約300組が視察に訪れており、全国から高い関心を集める施設となった。

<受賞> 日本ウッドデザイン賞2022優秀賞
林野庁長官賞(日本ウッドデザイン協会)
2022年度グッドデザイン賞「グッドデザイン・ベスト100」等

利用者
Voice



- ・赤ちゃん休憩室を利用したことで、同じ乳幼児を持つ親御さんと交流が持てるようになった。
- ・色々なワークショップがあるので、自分も特技を活かしてボランティアとしてそこに参加したいと思った！
- ・設備がユニークで子どもが楽しく遊べる。また利用したい！

えいぞうとおとの へや

利用者の中には、カームダウンを必要とする子どもがいる。



子どもの気持ちを落ち着かせることができるよう、多目的室や子育て相談コーナーにリラックス効果のある発光アイテム（スヌーズレン）配置。

その他付帯施設

身体を動かすばかりでなく、落ち着いて本を読んだりしたいという子どものための場所がない。



エントランスホール横に図書コーナー、読み聞かせコーナー、畳スペースを設置。

様々な属性を持つ子ども達を支えるためのスタッフが足りない。



○アテンダントルーム
アテンダントとして多くのボランティアが参加している。（2023年1月時点29人）

■施設管理者内での職員研修

- ・様々な属性の子どもを想定し、障害児や子ども達の遊びについて職員研修の実施。
- ・休館日を利用して、インクルーシブの観点から職員研修を実施（ポッチャ講習等）。

みんなのトイレ

子どものトイレに付き添う際、性別が異なる親が同伴することは、周りからの目が気になる。



女兒を連れた父親や性差に配慮するため、「みんなのトイレ」という名称にする。屋外で汚れた子どものため、シャワー完備。

- 隅々まで利用者に配慮することによって施設の魅力向上

女性だけでなく、男性も授乳室を利用したい場合もあるが、女性専用の部屋は利用することができない。



赤ちゃん休憩室（授乳室）は共用スペースのほかに、母親のプライバシーを確保する個室の授乳ブースを2ヶ所用意。

保護者が休める居場所や地域住民との交流の場が少ない。



施設に設けられたカフェスペースは、地元産の食材を用いた「食育カフェ」として営業。離乳食や嚙下食も販売している。



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2022